

## 増澤敏行さんを偲んで

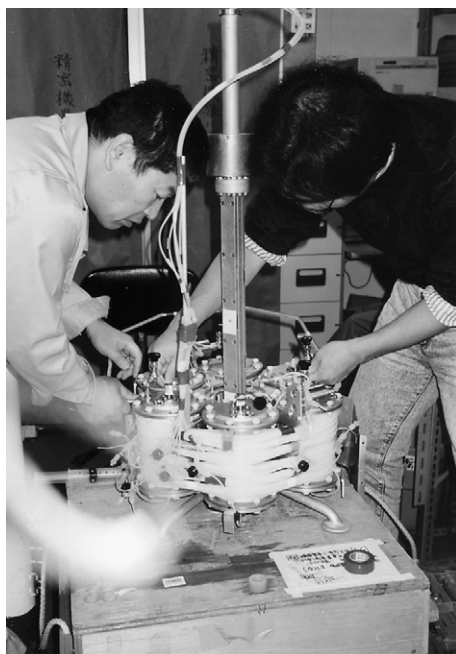
蒲 生 俊 敬\*

増澤さんと最初にお会いしたのは、ちょうど30年前、旧白鳳丸の船上でした。KH-75-3 航海という、海洋研で大学院生活を始めた私にとって最初の白鳳丸航海に、増澤さんはばりばりの助手として名古屋大学の金森悟先生と一緒に乗船してこられました。船の上でどのような会話を交わしたかはもう覚えていませんが、細心かつ大胆に試料をとりまくる増澤さんの澆刺さと、人懐っこい天真爛漫の笑顔に強い印象を受けたことを思い出します。

その後も、白鳳丸や淡青丸、あるいは JAMSTEC の「なつしま」「よこすか」などの船上で、何度も（おそらく10回以上）ご一緒する機会がありました。増澤さんといえば、堆積物間隙水です。その高度な採取・分析技術にかけては右に出るものはいませんでした。「測れるものは何でも分析する」とどこかに書いておられましたが、何が何でも新しいことを見つけようとする、その貪欲さと厳しさには、いつも頭の下がる思いでした。

必要な研究機材は、独創的なアイデアのもと、ご自分で次々と製作しておられました。私にとって思い出深いのは、「重錘式打ち込みコアラ」と「現場間隙水自動抽出装置」です。いずれも、潜水船（「しんかい2000」や「しんかい6500」）で深海の堆積物研究を行うために、増澤さんが開発された装置です。前者は、潜水船によって大量の不攪乱堆積物試料採取を可能にした画期的なもので、潜水船のマニピュレーターで円柱形の錘を持ち上げては自由落下を繰り返すことによって、コアラを海底面下深く打ち込むことができます。また後者は、同じ原理で海底下に深く打ち込んだ細い角形パイプの側面から、いくつかの深度別に、間隙水を自動的にその場で抽出する装置です（写真参照）。

いずれも、潜水船の特性や利点をよく理解し、かつ深海堆積物研究に深い情熱を傾けられた増澤さんならではの大作で、得られた試料の化学分析から多くの先端的な研究成果が生み出されてゆきました。私は自分の潜航調査でもこの打ち込み式コアラを



「しんかい2000」による相模湾初島沖での潜航調査を前に、自作の現場間隙水抽出装置の準備に余念のない増澤さん（1993年11月25日、「なつしま」船上）。

\*東京大学海洋研究所教授

使ってみたくなり、おそろおそろ増澤さんに借用をお願いしたことがあります。快く承諾していただき、お忙しいにも関わらず、丁寧に梱包したコアラーをすぐに送っていただいたのに感激しました。

これからも多くの航海で一緒に、海底堆積物や広く海洋の地球化学についていろいろご教示いただきたいと思っていた矢先のこと、突然のご訃報にただ呆然の思いです。ベージュ色の上下作業服にきりりと身を固めた増澤さんが、肩を怒らせながら、間隙水をしぼっている姿がまだ目に浮かびます。今は奥様と再会され、あの笑顔で安息のときを過ごしておられるのでしょうか。心よりご冥福をお祈りいたします。